



碧南ロータリークラブ週報

第3142回例会 令和7年10月8日(水)

- 会長 黒田 泰弘
- 幹事 永坂 誠司
- 会場監督(SAA) 長田 一希

2025-2026 年度
国際ロータリー会長メッセージ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <https://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 杉浦邦彦・長田康弘・杉浦秀延

UNITE
FOR
GOOD

よいことの
ために
手を取りあおう

●斉 唱

国歌「君が代」

ロータリーソング「奉仕の理想」

●四つのテスト唱和

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

落語家 参遊亭遊助様

大平哲成様 (名古屋名東RC)、古久根与美男様

会 長 挨 拶

失礼致します。

本日は参遊亭遊助様による「落語 米山梅吉物語」をご披露いただけるということで、後ほどよろしくお願い致します。我がクラブがご依頼させていただきました縁で、名古屋名東RC様と名古屋東RC様も「落語を依頼することになりました。」とご連絡をいただきました。

さらに名古屋東RCの幹事様より「当クラブのガバナーエレクトを交えた夕食会も企画しましたので、碧南RCさんからも2名ほどの出席をお願いします。」という依頼をいただきまして、今回担当していただきました伊藤さんと私で月曜日に参加させていただき、参遊亭遊助様を交えて懇親を深めてまいりました。

落語と言え、真っ先に思い浮かぶのは長田和徳君ですけれども、年間通してのチケットを購入されていて、公務でお忙しい時は私が代わりに行かせていただくこともあります



黒田泰弘会長

ので、私も落語にはアンテナが立っています。そんな訳で今回の企画をお願いさせていただきましたので、本日は皆様どうぞお楽しみください。

米山梅吉さんにまつわるお話ですが、皆様もご存知の通り、我が国初の東京 RC は 1921 年に世界で 855 番目のクラブとして RI に加盟を承認されました。それから 8 年後の昭和 4 年に発行されました米山梅吉さんの著書が私のコレクションの中から見つかりましたので、一部ご紹介させていただきます。

この中のロータリーの主義精神の部分を読み上げさせていただきます。

ロータリーがある種の秘密結社のごとく疑われましたのは過去のことには属し、ロータリーの主義精神はすでに世間に明らかとなりました。ロータリーはその組織の目的として次の 6 項を掲げております。

1. サービスの理想をすべて有用なる事業の根底に培養すること
2. 事業上・職業上に高尚なる道德標準を設定すること
3. 全会員をして、サービスの理想を各自の私生活、事業生活ならびに社会生活に適用せしむること
4. サービスをなす議会としての講義の助長発展せしむること
5. 会員をして、すべて価値ある職務の貴重なる由縁を認めて、各自の職務を社会に向かってサービスをなす地位機会としてその意義を尊重すること
6. サービスの理想に結合したる実業人並びに職業人の世界的団体を通じて広く人類社会の相互理解と交歓と国際平和とをますます促進すること

以上となりますが、96 年後の今の文言とほぼ変わらない理念を当時語っておられたことに少し私も驚きました。そんな米山梅吉さんに思いを馳せまして、私も今日は楽しみたいと思います。

皆様、それでは本日もよろしくお願い申し上げます。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ ロータリーレート変更のお知らせが届いております。10 月は 149 円になります。
- ・ ガバナー月信 10 月号掲載のお知らせが届いております。
- ・ RI2026 台北国際大会推進チームメンバーの出村知佳子様より「台北国際大会 通信 VOL.3 (2025 年 9 月号)」が届いております。
- ・ 地区公共イメージ向上委員会より「尾身茂氏講演会のご案内」が届いております。
- ・ 次回の例会はガバナー公式訪問になりますので、よろしくお願い致します。



永坂誠司幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 58 名（内出席免除者 14 名の内出席者 11 名）出席者 52 名	
出席対象者 52／55 名	出 席 率 94.55%
欠席者 6 名（病欠者 0 名）	

<ニコボックス>

- 大平 哲成様 本日は名東ロータリークラブから来ました、96歳の古久根与美男様をつれてきました。よろしくお願いします。
- 黒田 泰弘君 }
岡本 耕也君 } 9月25日、ポリオ根絶チャリティーゴルフ大会にご出席賜りましたメンバーの皆様、誠に有りがとうございました。
永坂 誠司君 }
- 鈴木 泰博君 先日は、大竹様、杉浦様、山口様と楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- 伊藤 正幸君 今月は米山月間となります。参遊亭遊助様をご紹介申し上げます。
- 大竹 密貴君 }
山口日出子君 } 鈴木泰博さん、杉浦秀延さん、先日は大変お世話になりました。どうもありがとうございました。
- 杉浦 保子君 長年書きためた俳句の一部を句集にまとめました。数冊ですが、持参しましたので、よろしければお持ち帰りして下さい。
- 岡島 晋一君 先日、私の会社の「さしみたまり醤油」が令和7年度農林水産大臣賞を頂く事が出来ました。昨年の「白醤油」に続き2年連続の栄誉を頂く事が出来ました。
お誕生日のお祝いを頂き、有難うございます。ついに還暦を迎えてしまいました。身も心も元気な60代にします。
- 樫山 朋久君 9月22日、東急ホテルにて公共イメージ向上の研修を受けてきました。SNSを利用して、クラブの活動をPRしようという内容で、たいへん勉強になりました。
- 亀山 晋次君 先日、妻とにいみカラオケ1階でオンステージさせて頂きました。楽しかったです。新美宗和さんお世話になりました。
- 山崎 太幹君 退会することになりました。長文ですが、手紙を書きましたので、よろしくお願い致します。御礼 長文大変失礼いたします。10月1日付の辞令にて、石川橋支店に異動となり、引継ぎ日程の関係で皆さまに直接ご挨拶できず退会することになりましたこと、お詫び申し上げます。大変失礼ながら、ご容赦願います。着任して2年半、この碧南ロータリークラブを通じて碧南を支える皆さま方と交流できたこと、一生の思い出に残る出会い

ができたことに、心より御礼申し上げます。何もわからず至らぬ点多々ある中で、最初はかなり緊張して過ごしていましたが、皆さまの温かい人柄で迎えていただき、今となっては水曜日に皆さまにお会いできるのが楽しみになっていました。職業柄、異動するのは常で、慣れてきているところもありますが、今回は非常に寂しい限りです。ただそんなことも言っていないので、次の場所でも、その先でも、皆さまに教えていただいたことを力に変えて、ロータリー精神である職業奉仕をして参ります。またどこかでお会いできると信じておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。また、私の後任者が入会するかと思います。変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。最後になりますが、碧南ロータリークラブの益々のご発展と、皆さまや関係する方々のご多幸を祈念いたしまして、結びとさせていただきます。本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました！皆さま、お元気で！またお会いしましょう！

<親睦活動委員会>

会員誕生日

3日 黒田 昌司君 9日 平岩統一郎君 21日 三木 信幸君
24日 岡島 晋一君（還暦）
29日 杉浦 勝典君

奥様誕生日

3日 山中 寛紀君の奥様 恭子様 6日 杉浦 栄次君の奥様 ちづる様
12日 小林 清彦君の奥様 登美子様 18日 奥田 雪雄君の奥様 万里子様
25日 平松 則行君の奥様 啓子様 25日 石川 鋼勇君の奥様 絵梨子様

結婚記念日

1日 倉内 松雄君・敦子様 22年 6日 藤関 孝典君・千智様 41年
10日 長松 政孝君・久美子様 15年 17日 牧野 勝俊君・ひろみ様 38年
26日 大竹 密貴君・弥生様 29年

クラブフォーラム

「落語 米山梅吉物語」

落語家 参遊亭遊助様



参遊亭遊助様

ご紹介を賜りました参遊亭遊助と申します。しばらくの間お付き合いを願っております。碧南市というところに初めて伺わせていただきましたが、私の初孫が今3歳になったんですけれども、名前に碧南市の「碧」

という字を付けておりますので、運命の出会いかなあとっております。

私、実はロータリアンではございません。なんで米山梅吉さんのお話をやらせていただいているかと申しますと、他のロータリークラブさんに呼んでいただいて落語をやらせていただきますと、必ず米山奨学生とか米山奨学金がどうのこうのっていうのが聞こえてくるので、ある時にそのロータリアンの方に「米山さんって誰ですか？」って聞いたら、「うーん、昔の偉い人。」なんて言われまして、ご存知ないんだと思いました。

それで、ネットでちょっと調べてみましたら、東京 RC にかなり事細かく書いてあって、なかなか大した人だと思って、その伝記も出てましたので本を買って読んでみたところ、ますます凄い人だなあと、ロータリアンの方に少しでも知っていただけたらいいかなあと思ひまして、昨年の夏には米山梅吉記念館にも行ってまいりまして、この話を作らせていただきました。もう 40 カ所ぐらいやらせていただいておりますが、日本にロータリークラブは 2000 何クラブあるそうなので、まだシェア 2%でございます。あと 98%あるかなと思ひている訳でございますが、しばらくの間お付き合いを願っております。

「黒田会長、こんにちは。」

「ああ、これは米山奨学生の劉さんじゃないかい。日本酒飲みに行く？」

「何ですかいきなり。だってあなたはこの日本に発酵学の研究をしにきて、特に日本酒の麹菌を研究してるでしょ。だから興味があるのかなあと思ひて。」

「そうですか。ありがとうございます。いえ、今日お邪魔をしましたのは、今度の休みでちょっと国に帰るので、それでご挨拶に上がりました。」

「ああ、そう。それは楽しみだね。」

「はい。うちの家族は日本のアニメの大ファンなので、アニメグッズをたくさんお土産に買って帰ります。」

「ああ、それは喜ぶよ。ところで黒田会長、今私がいただいている米山奨学金のその米山に先日友達と 2 人で登ってきました。」

「登った？」

「はい。新潟県の上越市と柏崎市の境にある日本三大薬師の米山薬師がある標高 993 メートル…」

「違う違う違う、あのね、米山って山の名前じゃないんだよ。」

「えっ、違うんですか？」

「それはね、日本のロータリークラブの草分けのような人の米山梅吉さんという人にちなんで付けられてるんだよ。」

「ちなんで？」

「あっ、難しかったかな。その人の名前を取ってと言ったらわかるかい？」

「ああ、あやかってということですね。」

「なんだよ。私より難しい日本語知ってるじゃないか。」

「どんな人なんですか？」

「あっ、知りたいかい。じゃあね、私が趣味でやっている落語で教えてあげよう。」

「落語？まあまあいいから、そこに座って、じゃあ始めるよ。」

「米山梅吉は慶応 4 年、つまり明治元年、江戸は芝で武家の和田家の三男坊として生まれました。」

「会長、会長、慶応？明治？六大学？」

「いやいやいや、そうじゃない。今、令和 7 年でね、それと同じ元号なんだけれども。ああ、そうか。元号じゃピンとこないかな。じゃあここから先は西暦で言ってあげてね。1868 年に生まれました。」

そして、11 歳の時のことをご紹介します。

「太田さん、お邪魔をしますよ。」

「これは隣村の長泉の名主の米山藤三郎さん、こんなところまでわざわざお越しくださいましてありがとうございます。どうぞお入りくださいませ。」

「では、お邪魔をしますよ。」

「太田さん、今日は実は折り入って話があって伺いました。お宅の三男坊の梅吉くんね、彼を我が米山家の養子に迎えられないかなあと思ひましてね。」

「えっ、うちの梅吉でございますか？」

「うん。梅吉君 7 歳でこの地元の映雪舎に入って以来、その優秀さは世間に名が轟いてるよ。神童と言われているくらいだ。だけど、太田さん、あなたはご亭主に早く死なれてしまって、江戸から故郷の三島に戻ってきて、つましい暮らしを送られている。上には男の子が 2 人もいる。三男坊の梅吉を中学に送ることすら難しいんじゃないかと思つてね。あれだけの才能の子を世に埋もれさせてしまうのはいかにも惜しい。そこで一方、米山家には男の子がいない。それでうちで養子にいただいて、中学、高校、できれば帝国大学にでも進んでもらって、大いに世のため人のために役に立ってもらいたいと考えているんですよ。いやいや、正式な養子縁組は彼が 20 歳になった時でいいと思うんだ。でも、それまでうちで暮らして、うちで学費から何から一切合切面倒を見ようと思つてるんだけど、どうかな？」

ということで、梅吉は米山家に住み込みまして、そこから学校に通うようになります。

ところが 15 歳の時のことをご紹介します。

「稲村君ね、僕は中学辞めて東京に出ようと思うんだよ。」

「えっ、どうしてだい？だって君はさ、米山家の養子になることが決まってるんだらう。成績だってこの沼津中学で抜群じゃないか。校長先生だってね、君には一目も二目も置いてるよ。そんなことしなくたって、高校受験で一高を受けて受ければ東京に行けるじゃないか。」

「こんな片田舎でね、どんなに優秀だからたって、全国には優秀な生徒は山ほどいるよ。一高なんてそう簡単に受かるもんじゃない。いや、それよりも僕はね、英語をもっともっと勉強して、アメリカに行ってみたいんだよ。」

「アメリカに、考えることのスケールが違うね。うん、面白い。応援するよ。っていうかさ、僕も一緒に東京に出るよ。」

なんてんで、故郷の親友であります稲村君と共に東京に歩いて出ていくのでございます。東京ではいくつかの学校に通ひまして、その中で生涯の友となります藤田四郎などとも知り合いますが、生活を成り立たせていかなくてはなりませんので、東京府の吏員試験、今で言いますと東京都の公務員試験を受けまして、これに合格をして働き始めます。しかし、アメリカ行

きの夢を諦めた訳ではございませんので、東京英和学校、現在の青山学院大学の夜間部に通って、英語やら他の勉強やらを積み重ねていきまして、数えの 20 歳で米山家と正式に養子縁組を結びまして、その後ほどなくして、いよいよアメリカに旅立ったのでございます。

アメリカではアルバイトをしながら語学学校ですとか、いくつかの大学に通ったりしますが、梅吉がもともと持っておりました社会に尽くしたい、奉仕をしたいという精神にキリスト教の影響も強く受けまして、ますますその思いを強くしていったのでございます。

さて、アメリカで 8 年という長い年月を過ごしまして、日本に 27 歳で帰ってまいります。日本では今度は東京に暮らしまして、かの勝海舟の知遇を得たりするのでございますが、新聞記者になりたかったくらい文章を書くのが好きでございましたので、「提督彼理 (ペルリ)」という本を著しまして、これが結構売れましたり、あるいは米山家の長女であります「はる」と結婚を致しまして、それから JR の源流の 1 つでございます日本鉄道株式会社に勤めたりということを致しますが、29 歳の時に先ほどご紹介しました親友の藤田四郎のもとで、三井銀行に入ることが決まります。

ところが、

「あれ、勝先生からお手紙だ。何だろう。えーっと、なにに、『君を大臣秘書官に推薦しておいたから、大臣に会いに行きたまえ。』大臣秘書官、大変な要職だ。でも待てよ、僕はもう藤田君の世話で三井銀行に行くことが決まっている。ここは順番を重んじる方がいいだろう。いくら勝先生のご推薦、大臣秘書官という要職とはいえ、これはお断りしよう。」

ということで、大臣秘書官という要職を断って三井銀行に入るのでございます。

三井銀行では早速に欧米金融視察団などというものに派遣されたり、その後は本店、神戸支店、横浜支店などというところを歴任しまして、入行わずか 12 年、41 歳にして常務取締役大阪支店長という要職に就きます。

そして、常務のまま迎えた 46 歳の時のことでございます。

「小林君ね、僕は今度こんな本を書いてみたんだよ。」

「拝見致します。ははあ、新隠居論。なるほど、常務はアメリカ生活が長かったですから、欧米の洒落た隠居生活を書かれたんですね。」

「いや、そうじゃないよ。第一線を退いてもね、社会に貢献する、社会に尽くすべきだということを説いているんだよ。」

「えっ、じゃあ何ですか？隠居してものんびりするなってことですか？」

「まあね、現役の時ほどやる必要もないし、そんなにはできないだろうけれども。でも、体力、知力の続く限り、社会に尽くしていく、社会から受けてきた恩を返していく、これを報恩と言うけれどもね、こうしたことをすべきだと説いているんだ。西洋ではね、こういった考え方が根強いんだよ。」

という、その新隠居論に著しました通り、当時からすでに米山梅吉は母校の青山学院が拡張募金というものを募集しておりましたが、そこの委員長に就任をしまして、募金集めに奔走するといった社会貢献活動を展開しているのでございます。

1917 年、49 歳の時に今度は政府の財政経済委員というのに選ばれてまして、米国の産業事情、財政事情などをつぶさに観察をするという長期出張を致します。そして、1918 年の正月

をアメリカのダラスで迎えますが、そこで三井物産のダラスに駐在をしておりました福島喜三次と出会います。福島は 1905 年にポール・ハリスが立ち上げて、全米、他国にも広がりつつありましたロータリークラブのダラスでの会員になっておりました。

どうやら日本人で初めてのロータリアンではなかったかと思われますけれども、梅吉は福島に連れられて、ダラスでの例会にゲストとして参加をしたようでございます。その時に梅吉は、ビジネスはビジネスとして一生懸命やりながら、一方で社会貢献に尽くすというこのロータリークラブの理念に強い共感を覚えたのでございます。

1920 年になりますと、その福島が帰国をしまいいりまして、梅吉を訪ねます。

「米山さん、ご無沙汰をしております。」

「ああ、福島さん、ダラスでは大変お世話になりました。」

「いえ、とんでもございません。実は今日お尋ねをしましたのは、1 つお願いごとがあつてまいりました。私、帰国をする時に、米山さんにも出ていただいたあのロータリークラブ、あそこから日本でもロータリークラブを立ち上げるようにとの使命を受けて帰ってまいりました。そして、少し動いてみたのですが、なかなか上手くいきません。そこで、お顔の広い米山さんにお力添えをいただけないかなあと思ひまして、こうして参上しました。」

「ああ、あのロータリークラブ。うん、それはいい、ぜひやりましょう。」

ということで、梅吉は早速チャーターメンバー集めに入ります。この時、梅吉が基準と致しましたのが、英語が話せる、英語を原書で読める、国際的な視野を持っている、という今日でも大変厳しい基準で選んでいったのでございます。そして、ついに 1920 年 10 月 20 日、日本初の東京 RC が発足を致しまして、梅吉はその初代会長に就任したのでございます。

こんなことがあつてから 3 カ月も経たない 1921 年 1 月 4 日のことでもございました。

「米山さん、息子さん、残念ですが、ダメでした。」

「えっ、東一郎が、『僕は病気なんかに負けない。』ってあんなに頑張っていたのに。」

長男の東一郎をわずか 20 歳で、急性肺炎で失ってしまいます。この東一郎の葬儀の時の梅吉の憔悴ぶりたるや、周囲が声をかけるのをはばかりほどであったと言われておりますが、こんな悲劇に見舞われましても梅吉はその東一郎を祈念して、東一郎が通っておりました青山学院大学に道場を寄付しております。そして、故郷の村に教育基本金というものを寄贈しているのでございます。

さて、ロータリークラブの方はどうなつていったかと申しますと、1923 年に関東大震災が起こります。この時、世界各地のロータリークラブから多額の義援金が東京 RC に寄せられます。東京 RC ではこの義援金をもとに初めて本格的な社会奉仕活動に乗り出していくのでございます。

また、東京にできた後、大阪、京都、神戸、横浜、名古屋といった全国の主要都市にも次々とロータリークラブができていったのでございます。梅吉の方は 1924 年にはロータリーインターナショナルのスペシャルコミッショナー、1926 年にはロータリーインターナショナル理事、1928 年には日本と満州を 1 つの地区と致します第 70 区の初代ガバナーに就任するのでございます。

また、実業の方は 1924 年に三井信託というものができまして、ここの初代社長に梅吉は就

任するのでございます。信託会社というのは当時、400 も 500 もすでにあったそうでございますが、信託二法という法律がきちんと整備をされて、初めて認可されてできたのが三井信託でございました。三井信託とは言っておりますが、当時ライバルでございました安田、三菱、住友、こういった他の財閥からも出資を仰いでできたある意味でオールジャパンの信託会社だったのでございます。梅吉は財産を委託する委託者、それを運用する受託者、その運用益を享受する受益者、この三者の関係から成り立ちます信託というビジネス、これこそがビジネスを通じた社会事業に他ならないということで、大変な力を入れていくのでございます。

さて、こんな梅吉ですが、どんな人であったかと言いますと、綺麗好きで、几帳面で、おしゃれで、大変な紳士であったそうでございます。毎朝、朝風呂に浸かって身を清めまして、折り目のついた新聞を読むのを何よりも楽しみとし、出掛ける時に服のコーディネートなどは家人には一切任せず、頭の先から足の先まで自分で選んで出掛けていったそうでございます。

こんなくらいですから、会社に行きまして、部下のネクタイが曲がったりしますと、「おい、君、ネクタイ曲がってるぞ。」とすぐに指摘をしたそうでございますし、真夏でも、業務時間中は上着を着用するよう指示を出すような人でございました。一方で、部下に会うと気さくに「仕事のことで悩みはないか?」、「家族のことで困っていることはないか?」などということを書いて回ったそうでございます。

そして、大変なイケメンだったそうでございまして、当時のスターと言えば歌舞伎役者でございますが、「三井の吉右衛門」と言われたり、「松本幸四郎」に似ているなどと言われたそうでございます。まるで当クラブの伊藤先生のようなイケメンだったそうでございます。拍手をいただいても結構なんでございますけれども。

冗談はさておきまして、1926 年に今度は次男の駿二も 21 歳で失ってしまいます。この時にも梅吉は次男の駿二が通っておりまして立教大学に心理学教室実験室というものを寄贈しているのでございます。

さて、1930 年代に入ってまいりますと、昭和恐慌を受けた経済の停滞が長引きまして、世間からは財閥というものに対する反感が非常に強くなってまいりました。その象徴的な事件というのは三井合名の理事長、三井の大番頭でありました團琢磨が三井本館の前で若者によってピストルで殺されてしまうという血盟団事件などというものも起こりました。三井ではこうした世間の反感を少しでも和らげようと、三井 11 家、11 のファミリーがあったそうでございますが、ここから 3 千万円、今日の貨幣価値では 3 千億円という巨額の資金を拠出してもらいまして、三井報恩会という社会事業団を作ります。そして、梅吉がその初代理事長に就任するのでございます。

三井報恩会では主に 4 つの分野で社会事業を展開してまいりました。1 つ目が医療でございます。2 つ目が社会福祉でございます。3 つ目が学術でございます、4 つ目が農村振興でございました。医療で言いますと、当時の難病でございましたがん、結核、ハンセン病、こちらへの研究の助成、あるいは患者の支援ということを行いました。社会福祉で言いますと、全国に 50 もの病院を新設したり、恵まれない子供の保護、あるいは高齢者の支援といったものを行っていきました。学術で言いますと、象徴的なのが富士山の山頂にありました測候所、これが政府の財政難で運用を停止しようとなった時に三井報恩会が資金を拠出して、運用を継続

させたといったことがございます。そして、農村振興でございますが、当時、東北地方を中心に大変な冷害が起こりまして、農村は困窮を極めました。その中でも特にひどかった青森県の西平内村と岩手県の彦部村、こちらに重点的に支援をしていったのでございます。

梅吉は理事長として決裁書類にポンとハンコを押すというだけでなく、全国の結核患者、ハンセン病患者の施設をすべて回ったと言われております。当時、ハンセン病は大人になってもうつると言われておりましたので、大臣が視察に行くなんていうことがありましても、施設が見える丘の上から帽子をとって手を振って、「はい、さようなら。」というのが視察であったそうでございますが、梅吉はそんなことは気にせず、施設の中に入って、ハンセン病患者と膝を突き合わせて、彼らの悩みを聞いたり、励ましたりしたそうでございます。また、支援している農村にも足しげく通いまして、彼らの悩みを聞いたり、新しい産業のアイデアを出したりして励ましていたそうでございます。

このようにして三井報恩会を通しての社会的貢献の他に個人と致しましても、自分の母校でもあり、妻の母校でもありました青山学院の小学校の設立資金を梅吉の名前で、幼稚園の設立資金を妻の名前で出したのでございます。それから、故郷の小学校には一千冊の本とそれを納める建物、すなわち文庫を丸ごと寄付をするという社会貢献活動を行ったのでございます。まさに自分が46歳の時に著した新隠居論の精神そのままを実践していったのでございます。

さて、1930年代の後半になってまいりますと、日米関係が悪化をしましてまいります。軍部が台頭してまいります。アメリカ発祥の活動でございますロータリークラブというものの活動が大変しくなかってまいりまして、1940年にはついに「ロータリークラブ解散宣言」というものを出さざるを得なくなりました。

しかし、東京 RC は「東京水曜会」と名を変えまして、その実質的な活動を継続してまいりましたし、全国のクラブでも6割ぐらいはそのようにして活動を継続していったと言われております。

一方、梅吉は1938年についに貴族院の勅選議員、天皇陛下からの指名を受けて国会議員になるということになりました。今まで個人としてロータリークラブを通じて、あるいは実業を通じて様々な社会貢献をしてきた梅吉が、いよいよ国政の場を通して社会に尽くしていくということになったのでございます。

しかし、終戦直後、1945年9月4日に貴族院に登院をしたところで倒れてしまいまして、その後は入院、故郷での療養ということになったのですが、1946年4月28日にその78年の生涯を閉じたのでございます。

梅吉の遺志を継いだ全国のロータリアンは、その後も高い職業倫理を保ちながら、社会貢献に尽くすというこの理念を今日まで実践し続けているのでございます。

「といったあたりがね、劉さん、米山梅吉さんの生涯とロータリークラブとの関わり合いだね。」

「ふーん、米山梅吉さんという人は日本のロータリークラブのお父さんのような人ですね。」

「うん、まさにそうだね。それで戦後ね、ロータリークラブは日本の中で復活をして、1949年にはロータリーインターナショナルにも復帰をしたんだけど、これからの日本は平和

でいかにくちやいけない。そのためにはアジアを中心とした留学生を支援して、日本を知ってもらって、好きになってもらって、草の根の平和活動をしていかなきゃいけないということでね、私財を投じて社会貢献に尽くした米山梅吉さんの名前を取って、1952年には東京 RC が米山奨学制度を始めて、これが全国に広がっていった、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会となってね、今日では毎年およそ 900 人、累計で 2 万 4,830 人、世界 134 の国と地域からの留学生を支援するという、民間としては日本最大級の団体になってるんだよね。そしてこれはね、ロータリアンの方々の寄付だけで養われているんだ。だからね、今月は米山月間だから、この碧南 RC の皆さんもきっとたくさん寄付をするだろうなあとは期待しているよ。」

「そうですか。でも、ロータリークラブというのは私が研究をしている日本酒の麹菌とよく似てますね。」

「えっ、似てるかい。どこが似てる。」

「はい、ロータリークラブの方々はご自分のビジネスは一生懸命おやりになります。そして、日本酒の麹菌も日本酒という売り物を一生懸命作っています。そして、ロータリークラブもカビの一種である日本酒の麹菌もどちらもホウシが大事です。」

「おっ、うまいこと言うねえ。その通りだよ。ロータリークラブも麹菌も、自分の仕事をしっかりやりながら、周りに良い影響を与えていくんだね」

おあとがよろしいようでございます。

次回例会案内

令和 7 年 10 月 22 日（水）卓話

「命はそんなにやわじゃない ～がん余命半年から 26 年を迎えて～」

「メッセンジャー」編集長&シンガーソングライター 杉浦貴之氏